

”イカ天”って
知ってるかい!?

イカ天
過去にとらわれる男と、^{歌手}夢を追いかける女の、^{プレリュード}
はじまりの前奏曲

馬の骨

www.umanohone-movie.com

小島藤子 深澤大河 ベンガル 桐生コウジ

しのへけい子 信太昌之 黒田大輔 大浦龍宇一
高橋洋 粟田麗 大和田健介 草野康太 吉田優華
志田友美(夢みるアドレセンス) 茜屋日海夏(i☆Ris) 河上英里子
萩原健太(音楽評論家) 石川浩司(元たま)

脚本・監督: 桐生コウジ 脚本: 坂ノ下博樹・杉原憲明 製作・配給: 株式会社オフィス桐生
DCP/アメリカンビスタ/5.1ch/91分 © 2018オフィス桐生

1989年流行語にもなった伝説のテレビ番組『イカ天』。

出演バンド「馬の骨」には 30年後の後日談があった

イカ天バンド「馬の骨」桐生コウジ原案、『ひよっこ』小島藤子初主演

2017年NHK朝ドラ『ひよっこ』で注目を集めた小島藤子の映画初主演作品となる。挿入曲「やまない音」の作詞、ギター弾き語りにも初挑戦。特技の書道を活かし題字も執筆。出演は「弱虫ペダル」の深澤大河、現役アイドル志田友美（夢みるアドレセンス）、茜屋日海夏（☆Ris）、河上英里子などフレッシュな面々に加え、ベンガル、しのへけい子、信太昌之、黒田大輔、大浦龍宇らベテラン勢が脇を固める。「イカ天」審査委員長の萩原健太と、元たまの石川浩司も本人役として特別出演。音楽監督に岡田拓郎（元森は生きている）、予告編演出を乃木坂46の個人PVを手がける頃安祐良、アイドル挿入曲のプロデューサーが久保こーじという異色コラボレーション。ライブシーンの撮影はスピッツやエレファントカシマシを輩出した「新宿JAM」、練習スタジオや路上ライブは音楽の街として知られる高崎にて。第32回高崎映画祭で特別先行上映された。



自称音楽家と元アイドルの オフビート音楽コメディ

工事作業員の熊田（桐生コウジ）は元イカ天バンド「馬の骨」のボーカリスト。作業現場でトラブルを起こし解雇された熊田は、家賃1万5千円の格安シェアハウスに転がり込む。アイドルのユカ（小島藤子）、ヲタク大学生の垣内（深澤大河）、キノコ狩りが趣味の宝部（ベンガル）、のんきな大家（しのへけい子）との奇妙な共同生活が始まる。住人たちから「職業は？」と問われた熊田は、つい「音楽関係」と口走ってしまう。アイドルを卒業し密かにシンガーソングライターを志していたユカは、熊田へのアプローチを開始する。やがて、熊田の正体が発覚し——。夢を放棄して30年間、いまだ鬱屈とした日々を送っている中年男が、一途に夢を追いつける若者との出会いによって、青春の後悔にケリをつけようと再起を図る。

アイドルと元ロッカーの奇妙な大人のメルヘンだと思って観ていたら、素晴らしい人生賛歌だった。生涯青春などという陳腐なものではなく、生きている自分の衝動を通念で抑え込むことが無意味だと気付かされる

——俳優 松尾貴史

映画は敗れざるものたちが携える「復活の剣」だ！

現実と物語は奇想天外にクロスし、女優誕生の瞬間、どこの馬の骨は、いかす映画の天国へ召されている！！

——芸人 水道橋博士

嗚呼、新宿JAM！何度も大学生だった90年代には通いました。

95年、NONA REEVESの初ライブも実はJAMです。

なので、あのハコが想い出としてこういう形で残ったことは嬉しいです

——ミュージシャン 西寺郷太 (NONA REEVES)



脚本・監督：桐生コウジ 脚本：坂ノ下博樹・杉原憲明 撮影：佐々木靖之 照明：秋山恵二郎 録音：植田中 音楽：岡田拓郎 美術：岡田匡未 編集：山崎梓 整音・音響効果：丹雄二 スタイリスト：小笠原吉恵 ヘアメイク：佐々木弥生 助監督：家次勲 監督補：芦澤潤 制作担当：齊藤光司 主題曲：「六根清浄」（作詞・作曲 桐生コウジ） 音楽協力：久保こーじ 題字：小島藤子 スチール：岡野慶 デザイン：門田麗子 宣伝：松崎まこと



6月2日 ⊕
テアトル新宿
にてレイトショー

特典付き 特別鑑賞券 1,300円税別

当劇場窓口にてお買い求めの方に
特製クリアファイル進呈 数量限定

当日 一般1,800円 / 大学・専門生1,500円 / 料金 高校生以下1,000円 / シニア1,100円



新宿駅東口 伊勢丹メンズ館隣 B1F

〒：テアトルシネマグループ

テアトル新宿

03 (3352) 1846 ttcg.jp